

第1学年7組 社会科学習指導案

1年1組教室 指導者 小倉 潤

1 単元名 戦国大名のはざまで揺れる吉良氏（戦国時代）

2 単元の目標

- (1) 戦国時代の下剋上の風潮の中で、地方の武将がいかんにして生き残りを図っていったのか、意欲的に追究することができる。
- (2) 西尾の戦国時代の歴史において、強大な勢力に挟まれた吉良氏が生き抜くために、どのような選択をしたのか資料を使って調べ、なぜその選択をしたのか考えることができる。
- (3) 吉良氏について調べたことや分かったことを年表や地図にまとめることができる。
- (4) 西尾の歴史の学習を通して、応仁の乱から戦国時代に移行する流れを理解することができる。

3 単元の構想

- (1) 生徒にかける教師の願い

入学当初に行った社会科に対する意識調査で、多くの生徒が苦手意識をもっていることがわかった。苦手とする理由として「遠い所のことや昔のことはよくわからない。」といったことが挙がった。そのような生徒の実態をふまえ、1学期の実践では、歴史的事象を実感できるような単元を構想した。歴史の「古の生活を探る（古代までの日本）」では、奈良時代の農民の生活に焦点を当て、彼らの生活を通して奈良時代を理解できるようにした。「昔のこと」を、今を生きる生徒たちに結びつけるため、農民の食事の再現や自分が農民ならどのように行動するかを考えるなど、実物を取り上げながら学習を進めた。単元後の生徒の振り返りには「覚えるだけの社会は苦手だったけれど、みんなで考えたり、話し合ったりすることは楽しい。」とあった。そのような生徒たちが、本単元を通して、当時の人々の生き方に迫る中で、その時代をとらえることができるようにしていきたい。

抽出生Aは、奈良時代の学習において自分が農民ならどのように行動するか考えることができた。しかし、資料を読み解く力が十分ではなく、Aの考えは感覚的・感情的なものになってしまった。根拠に基づいて思考する力を身につけられるようにするために、共通の資料を全体で丁寧に読み解く時間や、読み取ったことを視覚的にとらえやすいようにまとめる時間を設定していきたい。そして、全体場で発表する活動を通して、仲間の考えと自分の考えを比較し、社会的事象に対する思考力を高めていきたい。

- (2) 教材について

応仁の乱の勃発により京都で繰り広げられた争いは、次第に全国へ広がっていった。その結果、守護を中心とした室町幕府の地方支配のしくみが崩壊していった。地方支配のしくみの崩壊は、下剋上の風潮を生み出し、力をもつ者がのし上がる戦国時代へと突入していった。戦国の世は、中小勢力が乱立する地域もあれば、強大な勢力によって統治された地域もあり、一族が生き残りを図るためには、時代の流れを読むことが必要であった。

本単元は、吉良荘を治めていた足利氏の血筋をひく名門吉良氏が、下剋上の風潮が広がる戦国の世の中で一族の存続のためにどのような行動をとったか考えるものである。地元の歴史を扱うことで、中央史の学習に実感をもてずにいる生徒たちが、教科書に登場する人物と同じように地元の人々も当時の社会情勢を考えながら生きてきたということを実感できると考える。

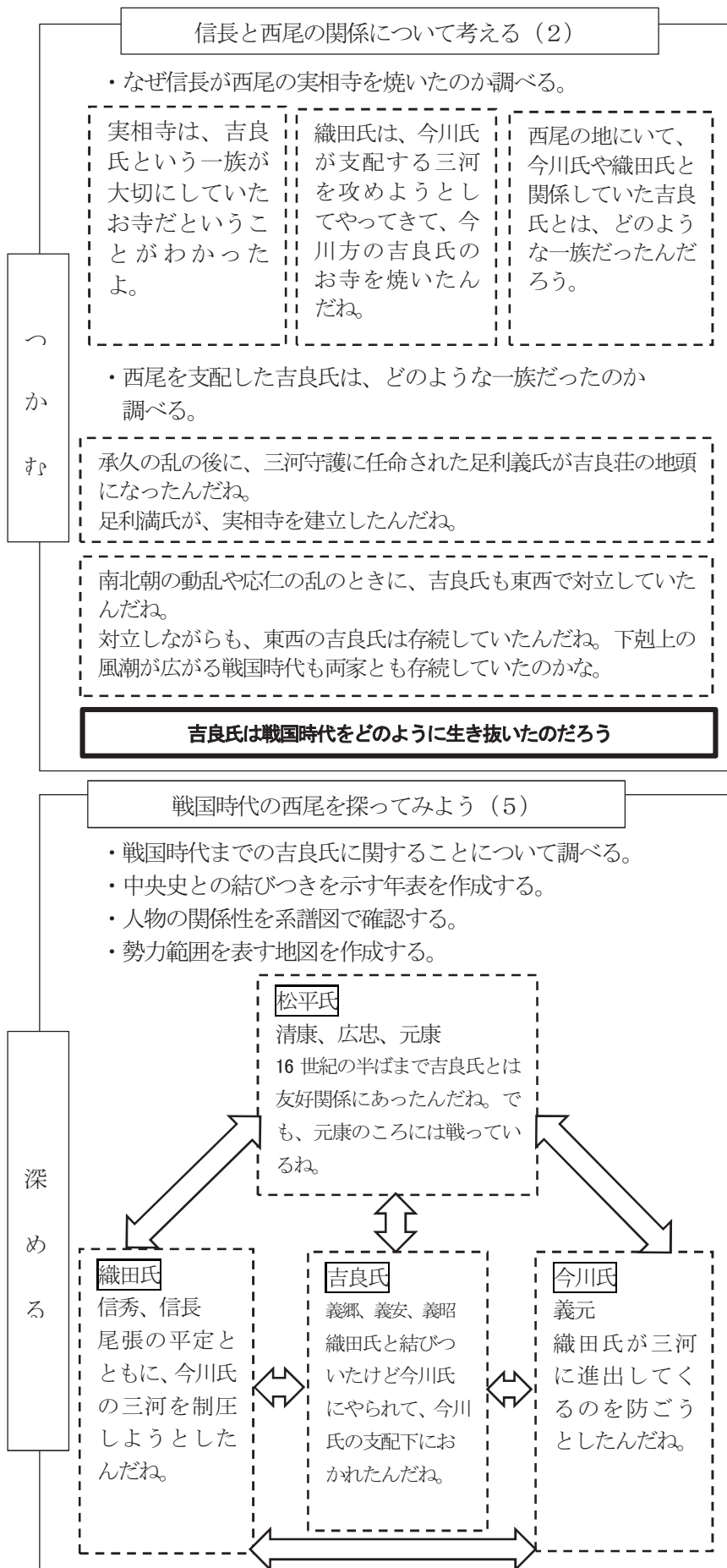
- (3) 単元について

つかむ段階では、織田信長が西尾の寺院を焼き払った史実を取り上げる。教科書にも登場する人物が、自分たちの校区にやってきたということは、生徒たちにとって驚きを与えるとともに、なぜこの地にやってきたのか疑問をもちやすいと考える。また、信長と西尾の寺院との関係を探る中で、吉良氏の存在に目を向けることができると考える。

深める段階では、吉良荘を支配していた吉良氏について調べていく活動を通して、戦国時代の地方の武将が、いかんにして生き残りを図っていったのかを考える。戦国時代においては、血縁関係による結びつきだけでなく、当時の勢力を考えた結びつきによるところが大きかったということを、織田氏や今川氏といった強大な勢力のはざまに揺れた吉良氏を通して学ぶことができると考える。

生かす段階では、戦乱の世を地方の武将がいかんにして生き残ってきたのかおさえる。その時々々の社会情勢をふまえながら、自分の身の振り方を考えることは、天下を治めた豊臣秀吉や太平の世を築き上げた徳川家康といった中央史に登場する武将の生き方にもつながると考える。

4 単元構想図（8時間完了、本時7／8）



教師の支援

- ・学習の意欲化を図るために、中央史に登場する織田信長が、校区にある実相寺を焼いた史実を取り上げる。
 - ・吉良荘の範囲を視覚的にとらえることができるようにするために、現代の地図に重ね合わせながら提示する。
 - ・吉良氏の東西分立は中央史と関連していることを理解できるようにするために、南北朝の動乱や応仁の乱の東西対立を取り上げる。
- ※抽出生Aが、複雑な地方の歴史をとらえることができるようにするために、年表を作成したり、共通の資料を全体で読み解いたりする時間を設定する。
- ・戦国時代の社会の様子を理解できるようにするために、下剋上の風潮や城下町の形成、分国法の制定についても学習する。
 - ・戦国時代における尾張や三河の武将の支配域を視覚的にとらえることができるようにするために、白地図に色分けしながら書き込むようにする。
 - ・人物の関係を理解できるようにするために、系譜図を作成し、その関係性を書き込むようにする。

深
め
る

強大な勢力のはざまでゆれる吉良氏は
どのようにして生き抜いたのか（本時）

西条吉良氏は、今川氏と血縁
関係がありながらも、織田氏
についたのは、新興勢力の織
田氏についた方が生き残れる
と考えたからだと思うな。

東条吉良氏が、今川氏につい
ていたのは、足利の血を引く
者同士だからだと思うな。さ
らに、織田氏とは比べものに
ならない領地をもっていたか
らだと思うな。

西条吉良氏は、将軍家とも結
びつきをつくり権威を高め、
勢力を拡大し始めた織田氏
についた方が生き残れると
考えたんだと思うな。

東条吉良氏は、松平氏と友好関係
にあり、その松平氏と結びつい
ている今川氏につく方が、当時の勢
力範囲から考えても、当然のこと
だと思ふから、そうしたんだと思
うな。

吉良氏は、今川氏が織田氏に
討たれてからも、松平氏と善
明堤や藤波畷で戦うなど、一
族を存続させるために常に緊
迫した状態を生き抜いたんだ
ね。

吉良氏は、織田氏と結びつこ
うとしたり、今川氏に従った
りするなど、そのときの状況
を考えながら自分の立場を
決めていたんだね。

戦国時代を生き抜こうとした吉良氏の動きがわかったよ。
西尾でも歴史に名を残した人がかかわっていたんだね。

地方で息づく人々の歩みをまとめよう（1）

・戦国時代の吉良氏についてまとめ、戦国時代の人々の生き様について理解を深める。

織田氏は要所をお
さえながら勢力を
拡大していったん
だね。徳川氏は、
織田氏のような強
大な勢力と結びつ
きながら、次第に
力をつけて、太平
の世をつくってい
ったんだね。

戦国時代は、下克
上の風潮があり、
いつ滅ぼされるか
わからない状況
で、それぞれの一
族が生き残るため
に、当時の力関係
を考えながら自分
の立場を決めてい
たんだね。

西尾でも、戦乱の
世の中を一生懸命
に生き抜こうとし
ていた人たちがい
たんだね。教科書
に出てくる人たち
が、自分たちの住
む西尾と関係して
いることがわかつ
たよ。

戦国時代を生きた人たちは吉良氏のように状況を見ながら立ち振る舞いを考えて生き抜いたんだね。

生
か
す

教師の支援

- ・年代ごとに揺れ動く吉良氏の立場を視覚的にとらえることができるようにするために、色分けした地図を提示しながら学習を進める。
 - ・吉良氏に關係する武将の勢力範囲についても理解できるようにするために、桶狭間の戦いなど中央史で学習する歴史的事象を取り上げながら、その当時の勢力範囲を確認する。
 - ・歴史的事象の発生場所を理解できるようにするために、西尾で起きた出来事については、西尾の地図を示しながら学習を進める。
- ※抽出生Aが、地方の武将がいかにして生き残りを図ったのか考えることができるようにするために、既習内容を根拠に考えるよう助言する。

- ・地方史の学習を、中央史の近世の学習につなげていくために、戦国時代の織田氏や徳川氏が次第に勢力範囲を広げていく様子を、色分けした地図で確認する。

地域の歴史に関心をもち自ら追究する抽出生A

5 本時の学習（本時7／8）

（1）目 標

- ・戦国時代を生き抜くためには、血縁関係の結びつきだけでなく、自分を取り巻く勢力との関係を考えながら行動する必要があったことを理解することができる。

（2）過 程

1 戦国時代の吉良氏について調べたことを発表しよう（10分）

- 戦国時代の吉良氏の動向について調べたことを発表し、吉良氏がどのように行動したのか確認する。
- ・西条吉良氏の義郷は織田氏と結びついて、今川氏と対抗しようとしていたんだよ。
 - ・義郷がやられてしまったからは、弟の義安は今川方に服従したんだよ。その結果、三河の地は今川氏の支配下になったんだよ。
 - ・義安は、今川方として織田氏と八ツ面山のあたりで戦ったんだよ。その後、再び織田方につこうとするけど、今川氏にやられてしまったんだよ。
 - ・桶狭間の戦いで今川氏がやられてしまったからは、吉良氏は松平氏と対立していたんだよ。

2 吉良氏は、大きな勢力にはさまれながらどのようにして生き抜いていったのだろう（35分）

- 西条吉良氏がなぜ織田氏につこうとしたのか考える。
- ・西条吉良氏は、系譜図で元をたどっていくと足利氏でも、吉良氏でも本家の流れの家柄だったね。東条吉良氏がついていた今川氏は、西条吉良氏からすると、本家にあたるから、本家のプライドとして今川氏につくことはしなかったんじゃないかな。
 - ・16世紀の西条吉良氏は、領地である浜松荘での家臣と今川氏とのトラブルを解決するために京都から離れていたね。それとは反対に、東条吉良氏は京都で力をつけていったね。浜松荘でも、京都でも勢力を失った吉良氏は、織田氏につくことで逆転を図ろうとしたんじゃないかな。
- 吉良氏が、戦国時代をどのように生き抜いていったのかまとめることで、戦国の世の特色をとらえる。
- ・吉良氏は、そのときの状況によって織田氏についたり、今川氏についたりして生き残ろうと考えていたんだね。
 - ・戦国時代を生き抜くためには、血のつながりだけにとらわれるのではなくて、力関係を考えながら行動することも必要なんだね。

3 本時の学習を振り返ろう（5分）

- 本時の振り返りを書く。
- ・誰の味方になるか、立場をころころ変えるのはおかしいなと思っていただけれど、戦国時代を生き抜いていくためには、必要なことなんだとわかりました。

教師のはたらきかけ

- ・戦国時代までの吉良氏の動きを想起するために、既習内容を確認する。
- ・戦国時代の織田氏や今川氏の勢力範囲を視覚的にとらえやすくするために、色分けした地図を提示する。
- ・吉良氏が、織田氏や今川氏、松平氏と関係することをおさえるために、整理しながら板書する。

- ・根拠にもとづいて考えることができるようにするために、既習内容を参考にしながら考えるよう助言する。
 - ・揺れ動く西条吉良氏の立場を視覚的にとらえやすくするために、年代ごとの立場を色分けして提示する。
 - ・戦国時代を生き抜くためには血縁関係だけではないということを理解するために、吉良氏や足利氏の系譜図を確認する。
- ※抽出生Aが、地方の武将がいかんして生き残っていったのか考えることができるようにするために、勢力図や系譜図を根拠に考えるよう助言する。

（3）評 価

- ・戦国時代を生き抜くために吉良氏がとった行動を理解することができたか。

（学習シート、話し合いの様子、発言）